

1号機未調査エリアの調査結果を踏まえた地下水等流入量について

2017年7月27日

東京電力ホールディングス株式会社

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

TEPCO

1号機未調査エリアの調査結果について

1

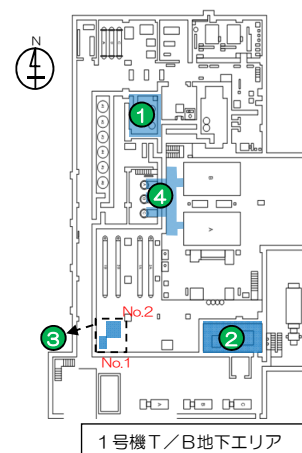
滞留水が残存している可能性のある以下のエリアについて、滞留水の有無を確認し、建屋滞留水貯蔵量が実態よりも約150m³余分に計上していることを確認した。

■対象エリア（1号機T/Bエリア）

- ①復水脱塩装置樹脂貯蔵タンク室
- ②主油タンク室
- ③電気マンホール
- ④復水ポンプ配管トレンチ

エリア	調査前の水量(m ³)※	調査後の水量(m ³)
①	74	0
②	31	0
③	16	14
④	61	22
合計	182	36

※ 調査前の水量は、各エリアを満水と仮定し算出した。
※ 調査の結果、146m³余分に計上されていたことがわかった。



©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

TEPCO

- ・今回、余分に計上していた建屋滞留水貯蔵量約150m³を補正し、6/29～7/6の地下水流入量を評価した。
- ・補正方法としては、6/29時点の建屋滞留水貯蔵量から余分計上の約150m³を引き、7/6時点の貯蔵量と比較し地下水流入量を算出

7/6時点	補正前	補正後
建屋貯蔵量の変化量 (6/29時点との比)	約+220m ³	約+370m ³
地下水等流入量	約110m ³ /日	約130m ³ /日

【地下水等流入量の評価式】

$$\begin{aligned} \text{(地下水等流入量)} &= \text{(建屋変化量)} - \text{(原子炉注水量)} \\ &\quad - \text{(その他移送量)} + \text{(ポンプ移送量)} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{(建屋変化量)} &= \text{(今週の建屋貯蔵量)} - \text{(先週の建屋貯蔵量)} \\ &= \text{(建屋貯蔵量の変化量)} + \text{(未調査エリアの変化量)} \\ &\quad \text{今回の補正対象} \end{aligned}$$